

デイリー・ジーザス・ニュース #255

受難週の火曜日…試練と教えの日

イエスは結婚披露宴の拒絶のたとえ話で指導者たちを叱責する
マタイ 22. 1-14

1 イエスはまた彼らにたとえ話をされた。

2天の御国は、息子のために結婚の宴会を設けた王のようなものです。3 王は、宴会に招いていた人々のところに僕たちを遣わして、来るよう勧めましたが、彼らは来ようとしませんでした。

4そこで、彼はさらに何人かの僕たちを遣わして言った。『招いておられる方々にこうお伝えください。『夕食の用意ができました。牛や肥えた牛も屠って、すべて準備が整いました。結婚の宴においでください。』』

5しかし彼らは気に留めず、ある者は畠へ、ある者は商売へ出かけました。6 残りの者たちは王の家来たちを捕らえ、虐待し、殺しました。7 王は激怒し、軍隊を派遣して殺人者たちを滅ぼし、彼らの町を焼き払いました。

8そこで、王は僕たちに言った。「婚宴の用意はできているが、私が招いた人たちは来るに値しない者たちだ。9 だから、街角に行って、出会った人をだれでも宴に招きなさい。」

10僕たちは通りに出て行って、見つけた人全員を、悪い人も良い人も集めたので、婚礼の場は客でいっぱいになった。

11ところが、王が客を見に入られたとき、そこに婚礼の服を着ていない人が一人いるのに気づきました。12 王は尋ねました。「友よ、どうして婚礼の服を着ないでここに入って来たのか。」その人は何も言えませんでした。

13そこで王は家来たちに命じて言った。「彼の手足を縛って、外の暗いところに放り出せ。そこでは泣き叫んだり、歯ぎしりしたりすることになるだろう。」

14 「招かれる者は多いが、選ばれる者は少ない。」

=====

注: 私たちは「混合テキスト」の原典福音書を次のように上付き文字で識別します: マタイ =^{MT}、マーク=^M、ルカ=^L、ヨハネ=^J、使徒行伝=^A。この「上付きID」は引用文の冒頭に挿入され、別の上付き文字が現れるまでその聖書書を識別します。さらに、赤いイタリック体はイエスの言葉を示します。旧約聖書の引用は大文字で書かれています。

コンテキストダイジェスト	
位置	エルサレムの神殿の庭
タイムライン	4月上旬（39ヶ月目）
イエスの生涯の文脈	第8段階：受難週
	C. 火曜日：テストと指導の日
タイトル	5. イエスは結婚披露宴の断りのたとえ話で指導者たちを叱責する

デイリー・ジーザス・ニュース #255

コメント：

今日の朗読の中で、イエスはこのたとえ話をユダヤ人の指導者たちに語りました。これは3回連続のたとえ話であり、彼らの不従順とその結末を描写しています。マタイ、マルコ、ルカの情報を合わせると、イエスがすぐにこのたとえ話を彼らに持ち込まなければならなかつたことがわかります。2つ目のたとえ話を終える頃には、彼らの耳は屈辱と怒りで真っ赤になっていました。彼らが最も望んでいなかつたのは、またしてもたとえ話の標的になることでした。しかし、彼らにはそれを聞かざるを得ませんでした。彼らが逃げ出す前に、イエスは飛びかかったのです。

これはマタイ福音書特有のたとえ話です。しかし、これはイエスがほんの数ヶ月前の12月下旬、ペレアのパリサイ人の家で開かれた晩餐会で語った結婚披露宴のたとえ話と非常によく似ています（DJN #205; ルカ14:15-24）。イエスはパリサイ人から拒絶されていることについて、長い間彼らに反論していました。ルカとマタイの物語には、いくつかの重要な違いが際立っています。

マタイによる福音書の中で、イエスはこの宴を、神が御子の王の婚礼のために設けた婚宴として具体的に描写しています。「御子」というモチーフの顕著さは、受難週において非常に重要でした。また、このたとえ話の中で、王は結婚の宴への参加を拒む口実を並べ立てる敵を滅ぼすことにも注目してください。御子に対する彼らの拒絶は絶対的なものであり、神の来たるべき裁きも同様でした。

マタイのたとえ話には、皇太子の結婚式という格式高い場にふさわしい服装をしていなかつた男の話も含まれています。これは、御国での生活にふさわしい者となるためには、イエスご自身の義を身にまとうことの大切さを示唆しています。独善的な態度は決して神の基準に達することはできませんでしたが、パリサイ人は人々の目に義人として見られることを誇りにしていました。彼らの義は神の目には汚れた布切れのようなものだったのです。

「招かれる者は多いが、選ばれる者は少ない」という言葉で締めくくられました。神の国における永遠の命の申し出は、すべての人を開かれています。なぜなら、神はすべての人にその機会を与えるよう招いているからです。しかし、神は、信仰によって、キリストの義を身にまとい、その招きに応じる者だけを、神の国に受け入れることを選ばれました。

このたとえ話は、ユダヤの指導者たちと国民が、御子を拒絶するという自らの決断によって王とその王国から引き離され、外なる暗闇へと向かっていることを痛切に示しています。この運命の日の午後、イエスが再びエルサレムのために涙を流すのも不思議ではありません。

応用：

イエスの三つのたとえ話は、愛をもって真実を語るという点において、一切の遠慮を許しませんでした。主がこのように民の指導者たちを独力で立ち向かうには、どれほどの勇気と自信が必要だつたか、想像を絶するほどです。イエスは人々を恐れず、父と御国への熱意に燃えていました。彼の輝かしい模範を、じっくりと深く見つめてください。

デイリー・ジーザス・ニュース #255

あなたを怖がらせる人物、またはイエスに従うことの結果はありますか？

この聖書箇所にあるイエスの例は、あなたの恐れについて何を語っているでしょうか。

どうすれば、あなたの恐怖を克服できるほどに、神があなたを彼自身で満たしてくれる信じられるでしょうか？